

防災対策

海岸部等へ放送施設整備を

事業費のバランス重要課題



こまつ たかとし
小松 孝年 議員

で、具体的な箇所は不明だ。

入野松原を含む県管理の西南大規模公園内には、放送可能なスピーカーは設置されておらず、大きな津波被害を受ける可能性がある黒潮町において、避難誘導のための緊急放送を確実に伝達する防災インフラは、以前から町は重要視し、検討している。

問 海岸部や松原内その他、人が多く集まる場所において、緊急時の放送が聞こえにくいエリアがある。そういったエリアの調査は行っているか。調査をしていけば、どこが拳がっているか、また、今後の計画について問う。

答 松本 情報防災課長

海岸部や山間部などでは、放送が聞こえないという状況は、町も把握をしている。スピーカーの音声到達範囲の詳細な調査は行っていないの

現在の告知放送の仕組みとともに、新たに同報系デジタル防災行政無線を、海岸部から津波浸水予想エリアにおいて建設する計画がまさにその具体例と言える。この整備で、告知放送、および防災行政無線いずれも放送可能なスピーカーとして建設をされる可能性が高いと考えられ、緊急放送の伝達としては非常に強固な仕組みとなる。人家エリアを大きく外れた海岸部等をカバーするとすると、現在想定

している事業費を大きく上回る規模となり、国、県の有効な補助制度もない中で、防災対策における必要性と事業費のバランスを今後どう判断するかが重要な課題となっている。

人脈活用

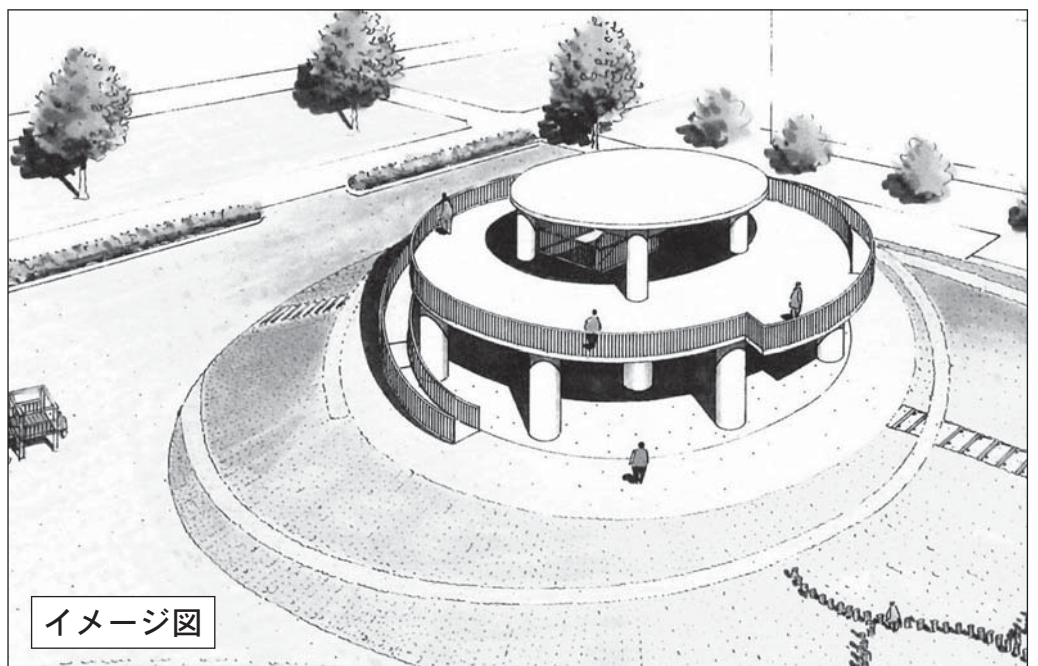
人と人との
つながりを活かす
まず情報収集の
仕方考える

問 これから黒潮町が進んでいこうとする計画、および活性化に向けて、黒潮町にゆかりの人物や交友関係、その他様々な人と人とのつながりの情報を集め、それを活用していくプロジェクトを計画してはどうか。

答 大西町長

ネットワークづくりは、大変重要であると考えている。

黒潮町にゆかりがあれば思い入れも強く、内容によっては高い効果が期待できると思っている。実際に、これま



イメージ図

県により設置計画が進む展望台(津波避難施設) ふるさと総合センター西側

でも人的ネットワークに大変お世話になった経験もあり、手法としては積極的に選択し得るものと考えている。

外商活動、ふるさと納税、ならびに観光誘致等、期待できる分野は多岐にわたると思

われるが、まずは、どうい

【その他の質問】

※団体支援について
※健康対策について